

◆ 小林 貴子 選

標識のがんばつて立つ暑さかな

(大野城市) 野分 のわ

踏ん張ればもう空蟬になつてゐる

(川崎市) 沼田 廣美

雷鳥に逢う息切れの空木岳

(大分市) 永松 英子

本人の知らぬ遺句集土用干し

(相馬市) 根岸 浩一

風鈴や鉄とガラスの協和音

(国分寺市) 石川 春子

炎天の声通る女子マネージャー

(伊勢原市) 合志伊和雄

鯖鮓は琵琶湖見えたら食べませう

(新潟市) 江端 妙子

やな人ね声の洩れ来る夕涼み

(福岡県鞍手町) 松野 賢珠

夏まん月石に座りて願ひごと

(東京都練馬区) 小池 来翔

短夜や夫に伝ふる子の破局

(臼杵市) 村上 玲子

【評】一句目、命なき標識だが、背負う任務は重要だ。二句目、命ある蟬の幼虫が脱皮した瞬間、幼虫はもう抜け殻に。三句目の空木岳は中央アルプスの一座。登山者は偶然雷鳥に出会い、小休止して見守る。四句目、句集を出すなら生前に。

◆ 長谷川 權 選

雷鳥の世界に星のまた一つ

(静岡市) 松村 史基

妻の死をたまに忘るる昼寝かな

(市川市) をかはまなぶ

老いたれば命を繋ぐ冷蔵庫

(伊丹市) 保理江順子

草木も決して忘れず原爆忌

(東京都中野区) 東 賢三郎

その日より山羊の乳のむ帰省かな

(越谷市) 新井高四郎

早起きの自転車集ふ夏休み

(宇治市) 岩井 秀友

朝刊の見出しの怒り釣忍

(横浜市) 木本 英男

風吹いて見えなくなりぬ水馬

(東京都足立区) 望月 清彦

大宇宙に地球はひとつ原爆忌

(石川県能登町) 瀧上 裕幸

もう来ない夕刊を待つ大西日

(札幌市) 樋山ミチ子

【評】一席。山岳地帯の空に星が瞬きはじめる。「雷鳥の世界」が大きい。二席。人間のかなしさ、昼寝のかなしさ。そんなこともある。三席。神にして祀りたい。かつて氷室を祀ったように。十句目。生活文化が変わってゆく。新聞もまた。